

ごあいさつ

今年また、新たな出会いと再開の春を迎えました。この出会いに感謝しつつ、この警固屋中で通算7回目の春を迎えました。

今年度は、これまで受け継いできた学園目標「自分を創る」から、「未来に挑む自分を創る」として2年目です。新入生13名を迎えた全校生徒46名で新たにスタートしました。

未来に挑むためには、様々な知識や技能、それらをもとに思考する力、そして、何よりも勇気が必要です。今年度は、知識をもとにじっくり考え、勇気を持って自分の考えを仲間に伝えることで、学び合い高め合う学校を目指します。

そのために、重点的に次の3点に取り組んで参ります。

1 仲間とともに「分かった」「できた」を実感する授業展開

生徒の理解度・達成度を確認できるよう、授業終わりの「振り返り」を充実させます。そのために、授業中に仲間とともに考えを広げ深め合う場の設定をします。

2 一歩踏み出す勇気と自信に繋がるような個々の関わり

他者の目が気になる思春期ですが、一方、他者からの評価は大きな自信になるのが思春期だともいえます。「できた自分」のみならず「でも頑張った自分」という一人一人の頑張りを、全生徒で認め合う取組を継続します。

3 「自分の命は自分で守る」そして「家族の命は家族で守る」取組

いつ何が起こるか分からない社会です。学校での避難訓練や携帯マニュアルとポケット防災手帳等、学校での学びを家族に伝え、家族とともに命を守る方法が話題となるよう情報を提供していきます。



警固屋中バス停前の堤防に佇むアオサギ

先日、警固屋中学校バス停前の堤防で、アオサギを見かけました。昨年夏、公開された宮崎駿監督の「君たちはどう生きるか」が頭をよぎりました。

その瞬間、このアオサギがこちらに視線を向け、まるで、「君自身、どう生きるのか。」「生徒たちには、どのような生き方をさせようとしているのか。」と、訴えるかのような姿でした。

3年目の「慣れ」を指摘されたようで、あらためて責任の大きさを自覚した春です。

令和6年4月 警固屋中学校長 坂井 峰子